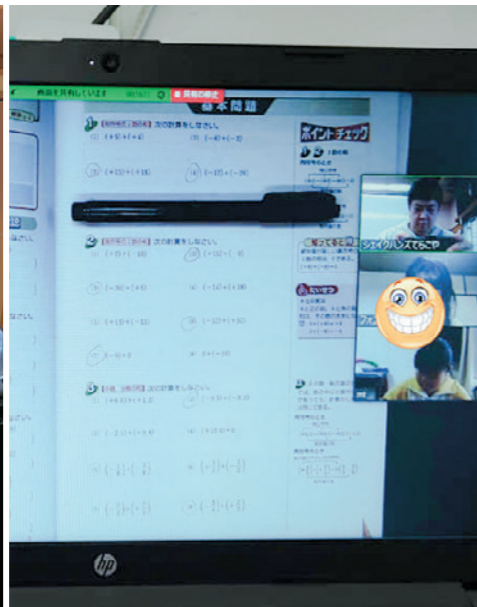


# コロナ禍でも 子ども支援の手を 止めない！ 助成団体の活動の工夫

新型コロナウイルス感染症により、支援が必要な子どもたちがより厳しい状況になるなか、支援の手をとめずにサポートし続けた助成団体の活動の工夫の一部を、各団体の皆様からご紹介いただきます。



## 重い病気を 抱える子どもの学び 支援活動助成団体 活動の工夫



病気を抱える子どもたちは、普段から感染症へのリスクを抱えており、通常時も支援者は病院に入る前に感染症の抗体検査を受けるなど、支援活動に十分な配慮をしています。家族でさえ病室に入ることが限られるコロナ禍においても、様々な工夫して子どもたちに寄り添う活動が行われています。



## 病気を抱える子どもたちのリスク増に対応して

### case 01 病院への立入禁止！

対応 → 子どもを一人にしない！  
病院に定期的にお手紙や教材を届け続ける



長期入院治療中の子どもたちが、友達とのコミュニケーションを奪われ、学習への意欲が失われ、学びが滞ることは大きな問題です。これを解決するために、大学生たちを組織化し「チーム・グッドブラザー」として活動をしています。コロナ禍以前は、お子さんの体調のよい時に、定期的にボードゲー

ムやクリスマス会などの交流を行っていました。病院に入ることができず、子どもたちとの関係が途絶えてしまうことを避けなければと、お手紙や手作りのワークを定期的に届けることで交流を続けました。病院のスタッフの方々にご協力いただけて、ありがたかったです。

特定非営利活動法人 未来ISSEY  
代表：吉田ゆかり

次男の闘病経験を経て、香川県で同じような状況の子どもや家族の力になりたいと団体設立。慢性疾患により長期入院や療養をしている子どもたちの学習・学び体験の場を作る活動や家族の相談事業に注力。現状を伝える講演活動や映像制作・上映も。



### case 02 感染への恐怖で外出困難！

対応 → Onlineでできる  
とんとん相撲を開発！  
落ち着いたら一緒にスポーツしよう！



「チャレンジスポーツ！」では、医療的ケア児や発達課題がある子どもなどと健常の子どもと一緒にスポーツを楽しみます。体を動かす喜びもありますが、様々な子どもたちが交流することに意義を感じています。感染が怖くてほとんど家から出られない子どもも多く、一緒に遊びやスポーツをすること

が全くできなくなりました。そこで、家に居る子どもたちが自分の得意なスイッチボタンでPCを操作し、会場の子とも紙相撲で対戦する「オンラインとんとん相撲」を開発しました。コロナが落ち着いたら再会できたとき、すぐに仲良くできればと願っています！

特定非営利活動法人 BLACKSOX  
代表：西野耕太郎

プロテニスプレイヤーとしてご活躍後指導者に。2002年より、医療的ケア児童・重度重複障がい児童の同年代の健常児とスポーツによるコミュニケーションを目的とする「チャレンジスポーツ」を開催。テニス教室生徒の大人もボランティアとして参加。





## 経済的困難を抱える子どもの学び支援活動助成団体活動の工夫

緊急事態宣言や休校は、経済的困難を抱える子どもたちに大きな影響をもたらしました。「給食がない」「オンライン学習が推奨されても環境がない」といった物質的な課題だけでなく、保護者との関係性の悪化や孤立など、精神的なダメージを受けた子どもも少なくありません。さらに大きくなった課題に対してすぐに対応した団体の例をご紹介します。

## 学習教室の現場の混乱を乗り越え、子どもたちに向き合い続ける

case 01

### 学習教室会場の使用禁止！

対応

教室に來れない！  
別の場所を探しつつ  
オンラインでも

すぐにeラーニング教材とオンライン学習支援ができるように準備しました。環境のないご家庭には、企業の寄付などで調達したPCを貸し出し、所属している約250人の子どものほとんどが学びを継続することができました。



(濱住) 普段の場所が使えず、学習教室には使用していなかったカフェの2階を、急速勉強ができるように整えました。(松本)

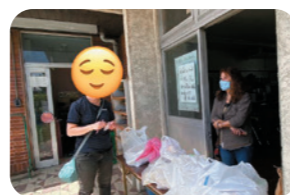
case 02

### 勉強どころでない！お昼ご飯がない！

対応

フードパントリーや  
お弁当を宅配！  
子どもの顔を見る機会にも

学校給食がないのが心配で、学習プリントと一緒に週2回弁当宅配を行いました。配達した際にパジャマ姿のままにいる子もいて、生活の乱れがわかりました。(松本) 子ども食堂などの地域団体からいただいた食材を、時間をずら



して生徒に取りに来てもらいました。教室が開催できなくても週1回顔が見られホッとしました。(濱住)

case 03

### 直接の学習指導は欠かせない！

対応

密を避ける工夫をして開催

感染防止のため、教室の定員を半分程度にして、前半後半と時間を分けて実施しています。1回の学習時間は以前より減ってしまいましたが、eラーニングだけで学習を進めるのは難しく、教室が再開できてよかったです。(濱住) 部屋を分けたり、机や椅子の配置を工夫したり、また一部の人はオンラインで参加するなどの工夫をして密を避けています。(松本)



面接の練習も密を避けて



特定非営利活動法人 ユースコミュニティ  
代表：濱住邦彦

学習教室にボランティアとして参加したことをきっかけに、任意団体ユースコミュニティを設立。2014年にNPO法人化し代表理事に就任。2016年より大田区子どもの貧困対策に関する計画検討委員としても活動。



特定非営利活動法人 シェイクハンズ  
代表：松本里美

愛知県犬山市で市民活動を続け、15年ほど前から多文化共生に関わり、日本語教室、プレスクール、地域資源カフェなどの事業を実施。2020年度より農福連携の地域協働コミュニティ農園の運営を行う。

## 児童養護施設職員へのダメージを見逃さない

休校により、多くの児童養護施設で、日中は子どもが学校に行っている前提で調整していたスタッフの業務が困難になりました。スタッフの疲弊が見受けられ、子どもへの影響を最低限におさえる必要がありました。

case

### スタッフのSOSを解消したい！

対応

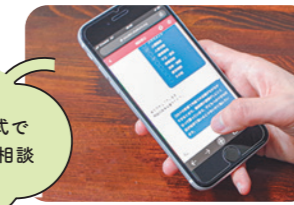
相談アプリの緊急立ち上げ！



特定非営利活動法人 チャイボラ  
代表：大山運

会社員時代に、破棄される教材を児童養護施設に寄付しようとしたことをきっかけにこの世界に。社会的養護施設における人材の確保と定着を促進することで、「子ども一人ひとりが大切に育てられる世の中」を目指してチャイボラを立ち上げる。

休校中の現場のスタッフさんは、日々対応に追われ、疲弊が見られました。困りごとを解決し、離職を防ぐ手立てがないかを検討し、年度当初には計画していなかった、「社会的養護施設職員のための相談窓口」を立ち上げました。経験豊富な元児童養護施設職員が窓口になり、弁護士・社労士・心理士・施設長などと連携し運営しています。助成事業で予定していた現場での体験会や見学会は、施設に入ることができないため、オンラインに切り替える工夫をして実施しました。



チャット形式で気軽に無料相談

## 団体運営の基盤が揺らぐ局面にも、解決の道を探る

団体の多くが、支援者を増やし寄付をつるために、集客型のシンポジウムやイベントを実施しています。2020年度は、多くが中止やオンラインなどによる実施となり、目標額の達成が厳しくなりました。

case

### 集客型ファンドレイズイベントができない！

対応

企業やお店に寄付箱を設置



一般社団法人 栃木県若年者支援機構  
学習支援コーディネーター：吉井久乃

国際ボランティアNGO職員を経て栃木県へ。貧困家庭の子どもたちなどを対象とした学習支援プログラムや「みんなが安心できる暮らしを社会全体で支える」ことをテーマにしたネットワークの構築事業の全体コーディネートを担当。

これまでの集客型チャリティイベントが軒並み実施できなくなりました。訪問型学習支援に特化した募金箱を作り、活動の意義や必要性をお伝えする専用のリーフレットと一緒に置いていただきました。県内の方々にSNSや口コミで設置を依頼し、回収、御礼をしながら増やしていきました。



栃木県内に28か所設置！

## 各団体が工夫して子ども支援の手を止めないことに感謝！

今回教えていただいた事例以外にも、マスクや消毒を準備して学習支援を続けたり、シンポジウムやスタッフ研修をオンラインで実施したりするなどの工夫を各団体が行っていました。ベ

ネッセこども基金もこの状況に対応すべく、費用転用やスケジュール変更に伴う助成期間の延長を行いました。今後も情報共有や社会発信を引き続き行ってまいります。